

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 佐倉うすい教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 15日		～ 2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27ご家族	(回答者数) 20家族
○従業者評価実施期間	2025年 10月 15日		～ 2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	季節ごとのイベント(夏祭り、ハロウィン、クリスマス等)を行っている。	毎年内容が同じにならないようにその時の利用のお子様に合わせて等工夫し、実施している。	感染症等の動向を見ながら感染対策も含めて子どもたちが楽しいと感じることが出来るイベントを増やしていく。楽しさの中でも「出来た」と達成感が持てるように工夫をしていく。
2	多種多様なプログラムを取り入れ、活動内容を子どもに合わせてられるようにし、少しずつステップアップしている。様々な研修を行い、支援の向上をしている。	毎月新しいプログラムを取り入れ、同じようなプログラムが重ならないようにしている。また、子ども一人一人に向き合い、本人に合った支援を行っている。毎月一回は研修を実施している。	子どもの能力に合わせて難易度を考慮している。子どもをより把握するために情報共有を徹底し、より良い支援を考えていく。研修で学んだことを支援に活かしていく。
3	毎週SNS(インスタグラム)を更新し、活動内容を発信している。	写真、動画等を活用し、教室での様子を保護者の方だけでなく、様々な方にも見ていただけるようにしている。	同じような内容にならないように工夫していく。情報を発信する場とし、教室に興味を持っていただけるように考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流がない。	周辺の散策等でのあいさつだけで、地域の方々との交流を持つ場面や機会がない。	他事業所等の方と情報交換している時などに近隣地域の情報も把握し、地域の輪には入れるようにしていく。
2	保護者同志の交流がない。	仕事をされている保護者も多く、希望されない保護者と様々な意見があり、実施出来ない。	希望がある場合については検討していく。
3	教室内がバリアフリーではなく、空間が狭いことがある。	大きな段差があったり、利用人数の子どもに対して空間が狭いとを感じる事がある。	段差の部分は注意喚起をし、付近では活動等を行わない。空間を考えながら活動内容を工夫する。